

10/25
2018年第1313号
(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会 敬
 会 志岐
 行 人 幸町1-2-33
 大 阪 市 浪 速 区
 電 話 (06) 6568-7731 (代表)
 http://osk-net.org/
 ● 定価・年間10,000円 月1,000円
 ● 1977年5月23日第三種郵便物認可

いのちと平和守れ



社会保障拡充 憲法改悪阻止 医療関係者が集会

安倍政権が進める患者負担増政策の撤回や社会保障の充実、憲法改悪ストップなどを求め、全国の医師・歯科医師・医療関係者が11日、「憲法・いのち・社会保障まもる国民集会」を東京・日比谷野外音楽堂で開いた。全国保険医団体連合会や日本医療労働組合連合会、全日本民主医療機関連合会などをつくる実行委員会が主催し、3700人が集結。「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」から戸井逸美代表世話人（協会副理事長）のほか歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士ら14人が参加した。

主催者あいさつでは、実行委員長森田しのぶ氏（医労連）が「憲法守れの声と共同を大きく広げ、社会保障の解体、競争する国づくりは絶対に許せない」と国民に訴えていく」と強調。リレートークでは、各団体が安倍政権の医療・福祉切り捨てによる現場の窮状を報告した。

立憲民主と共産の国会議員が参加。医師の小池晃参院議員（共産）は、沖縄県知事選で玉城デニー氏が勝利し、「オール沖縄」が安倍政権にノーを突きつけたことを示し、「市民と野党の共闘で自公を少数に追い込む」「生存権を奪うような安倍政権の社会保障破壊を許すわけにはいかない」と訴えると、大きな歓声が沸き上がった。集会には日本医師会長、日本歯科医師会長が賛同メッセージを寄せた。

集会後、参加者は銀座をデモ行進し、「軍事費を削って社会保障に回せ」とアピールした。

同日、大阪連絡会は、大阪選出の国会議員らに歯科医療現場や患者の実態を訴え、▽窓口負担の引き下げ▽保険適用範囲の拡大——などを求めた。面談に応じた山下芳生参院議員（共産）は「技工士の現状を切実に受け止めた」、辰巳孝太郎参院議員（同）は「診療報酬改定に多くの歯科医師が矛盾を感じていることが分かった。不合理な部分を解消できるよう力を尽くしたい」と話した。

（3面に要請議員一覧）

子どもの口腔崩壊 歯科健康格差対策

政策部は13日、M&Dホールで市民公開講座「子どもの口腔崩壊と歯科健康格差対策を考える」を開き、香西克之氏（広島大学大学院医歯薬保健学研究科小児歯科学教授）を講師に60人が参加した。講演内容を3回連載で紹介する。

子どものう蝕は減少している。3歳児のう蝕罹患率は、貧困をはじめとする社会的要因やネグレクトなどのう蝕になりやすい成育環境とその他の要因（▽障害児、有り病児、発達障害児▽診療格差▽地域格差）に起因する。

健康格差が問題となっている。子どもの口腔内の健康格差は、貧困をはじめとする社会的要因やネグレクトなどのう蝕になりやすい成育環境とその他の要因（▽障害児、有り病児、発達障害児▽診療格差▽地域格差）に起因する。

東京都足立区の調査



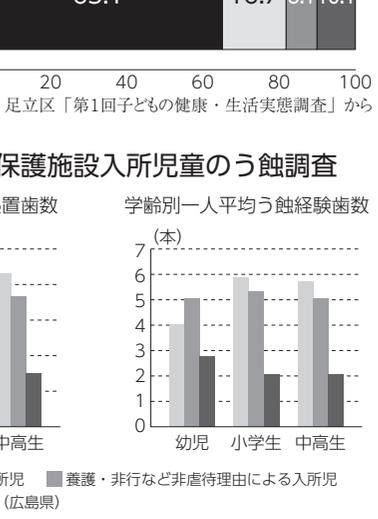
口腔格差は社会経済的要因と成育環境に起因

図1 東京・足立区の小学生のう蝕本数

生活困難家庭	非生活困難家庭
51.5	19.2
65.1	16.7

図2 一時保護施設入所児童のう蝕調査

学齢別一人平均未処置歯数	学齢別一人平均う蝕経験歯数
幼児 4.5	6.5
小学生 4.0	5.5
中学生 3.5	4.5



は、貧困が子どものう蝕の発症や重症化と強く関係していることを指摘する（図1）。また、広島県歯科衛生連絡協議会の専門委員会のメンバーとして広島大学が実施した一時保護所に保護された子どもへの口腔内調査は、保護された子どもの健康意識に依存する。そのため、親が子どもにう蝕予防は、家庭で行

う予防、歯科で行う予防、公衆的予防に分類される。日本における子どものう蝕減少は、前者2つの予防対策が実行可能な成育環境下にある家庭が圧倒的に増えたことによると考える。一方、予防指導や予防対策に対応できない家庭や環境下にいる子どもは予防対策の傘から漏れ、ハイリスク児のまま口腔崩壊へと進むことになる。健康格差の解消には、ハイリスク児への積極的な歯科介入を進めると同時に、すべての子どもたちに平等に供与できる公衆的う蝕予防対策が必要なのである。

無関心だったり、デンタルIQが低いと、子どものう蝕リスクは高まる。特に「口腔崩壊」の子どもの成育環境に問題を抱えるケースが多い。

協会直通番号のご案内
 保険請求のご相談や年金・休業保障制度のお問い合わせは直通番号をご利用ください。
 社保研究部 06-6568-7467
 共済部 06-6568-7438

- ### 福祉医療費助成に関する協会の要望
- ① 4月の制度改定で対象外になった人を助成対象に含めること
 - ② 一部負担金を4月改定前の水準に戻し、府民がお金の心配なく治療を受けられるよう無料化を進めること
 - ③ 子どもの医療費助成制度の対象年齢を入院時とも中学卒業まで拡充し、所得制限をなくすること
 - ④ 65歳以上を対象にした医療費助成制度を創設すること
 - ⑤ 精神病床入院について、助成対象に戻すこと。ただし対応が難しい場合は入院期間が3カ月までは助成対象とすること
 - ⑥ 市町村への医療費助成制度にかかる補助率をただちに引き上げること

医療助成改悪撤回求める

府は当初、福祉医療費助成制度を改悪したことを受け、協会は要望書で4月以前の制度に戻すことを求めている。福祉医療費助成制度はこれまで「子ども」「ひとり親」「老人」「障がい者」を対象としていたが、府は4月に「老人」を廃止し、「障がい者」を「重度障がい者」に再編。一部の難病患者が新たに助成対象に加わったものの、精神病床への入院や重度以外の精神通院患者を対象から外した。窓口負担については、「重度障がい者」の一部負担金を改悪。1回500円は据え置いたが、1000円を撤廃し、調剤薬局でも1回500円の負担を新たに課した。

景気の停滞や増税など府民生活が厳しさを増すなか、経済的な不安から受診できない患者が増えている。協会は誰もが経済的な不安なく治療を受けられるよう、福祉医療費助成の対象者の拡充や一部負担金の無料化などを求めて府と交渉する。

2018 大阪府交渉

協会は、府民が安心して必要な医療を受けられるよう、医療費助成の改善や口腔保健対策の充実などを求めて、毎年大阪府と交渉している。今年度は12分野72項目にわたる要望書を取りまとめ、17日に府へ提出した。要望書の主な内容を連載で紹介する。

今年4月に府が福祉医療費助成制度を改悪したことを受け、協会は要望書で4月以前の制度に戻すことを求めている。福祉医療費助成制度はこれまで「子ども」「ひとり親」「老人」「障がい者」を対象としていたが、府は4月に「老人」を廃止し、「障がい者」を「重度障がい者」に再編。一部の難病患者が新たに助成対象に加わったものの、精神病床への入院や重度以外の精神通院患者を対象から外した。窓口負担については、「重度障がい者」の一部負担金を改悪。1回500円は据え置いたが、1000円を撤廃し、調剤薬局でも1回500円の負担を新たに課した。

府は当初、福祉医療費助成制度全体の改悪を目指していたが、協会はこれまで多くの市民団体や住民から批判を受け、「子ども」と「ひとり親」は現状維持に転換。窓口負担についても、1回800円や1割負担にする案から据え置いた。医療費助成の改悪反対を訴える府民の運動が歯止めとなって大幅な改悪を阻止している。

この平穩が今後も持続するとは誰も想像できないが、自分の寿命を含めて先のこととは次の世代に任せれば他人事となる。日本人は過去を振り返らず、未来を憂慮せず、喧嘩も議論もせず、「上手」に暮らしている。

日本史上最大の外憂は13世紀の蒙古襲来と20世紀の原爆で終結した第2次世界大戦であるが、自然災害ほど真剣に分析・総括されず、深部にまでメスを入れない。「蒙古」は兵器と戦略の差異を無視して神風で決着し、第2次大戦の源流は昭和の軍部台頭まで、幕末の勤王ブームや明治にまで届かない。

オリンピックや万博など、ビッグイベントは相変わらず私を含めて日本人の思考停止剤になっている。

歯界

格差の拡大で貧困層が置き去りにされつつある。車とペットと最新スマホを持つと勝ち組に仲間入りした感覚になり、将来への不安を一時忘れて自然災害さえ運よく免れれば何とかやっていけそうな雰囲気になる。

この平穩が今後も持続するとは誰も想像できないが、自分の寿命を含めて先のこととは次の世代に任せれば他人事となる。日本人は過去を振り返らず、未来を憂慮せず、喧嘩も議論もせず、「上手」に暮らしている。